

(新) 豊かな沿岸環境回復のための閉鎖性海域水環境保全中長期ビジョンの策定調査

68百万円(0百万円)

水・大気環境局閉鎖性海域対策室

1. 事業の概要

東京湾等の閉鎖性海域における対策は長期の取組を要するものであり、水環境の保全のために、排水規制、水質総量規制及び生活排水対策等、各種施策を継続して実施してきたところである。その結果、海域のCOD、窒素、りんの濃度については改善の傾向が見られるものの、環境基準の達成状況については、劇的な改善を示すに至っていない。また、赤潮の発生や貧酸素水塊の形成など、海域の生態系に悪影響を及ぼす現象も起こっていることから、現在の水環境を効果的に改善し、さらなる豊かな沿岸環境の回復を図る必要がある。

そこで、各水域の環境容量を明らかにし、工場・事業場排水に対する総量規制、面源対策、浅海域や底質等の環境改善対策等を総合的に推進していくための中長期ビジョンを策定する。

2. 事業計画

- (1) 対策シナリオの検討(平成19～20年度)
- (2) 水質汚濁メカニズムの更なる解明・シミュレーションモデルの構築(平成19～20年度)
- (3) 目標とすべき水環境の設定(平成19～20年度)
- (4) データ収集および補足調査(平成19～20年度)
- (5) 中長期ビジョンの策定(平成19～21年度)

3. 施策の効果

中長期的目標を設定することにより、閉鎖性海域に係る広範な利害関係者の理解と協力を得つつ、東京湾・伊勢湾・瀬戸内海をはじめとした、閉鎖性海域全般の保全対策の充実・推進を図る。

豊かな沿岸環境回復のための閉鎖性海域水環境保全中長期ビジョンの策定調査

